

## こどものためのオペラ

作品というものは、あるややこしさをきちっと持っていないと、簡単なものだけではだめなわけです。今お話ししたことは、1つ1つのモチーフその多くはどっか底流にある、その隠れているものが確かに見えなくても、作品全体が何かを暗示している。それはこどもの観客にも必ず伝わると思っている。

一番初めに「こどものためのオペラ」と仮にっていたが、ぼくはこどものためだけの何かという風にはあまり考えない。「セロ弾きのゴーシュ」「森は生きている」にしても、大人がこどもの楽しみに付き合っただけ、というものではおそろくないわけです。ただし、こどもが見ることができる、わかんないことも含めてね、というものが必要なんだと思います。



### ねこのくにのおきやくさま

6月12日(日) 14:00開演 会場:エル・シアター

参加費(4才~/全席指定/当日500円増)  
 会員:会費のみ  
 一般:S席3,000円/A席2,000円

2011年(平成23年)2月9日 水曜日 享月 日 楽庁 屋上 (夕刊)

### 音楽

#### オペラシアターこんにゃく座 「ねこのくにのおきやくさま」



創意に富んだ「ねこのくにのおきやくさま」  
 竹原伸治氏撮影

#### 歌にピアノに 挑戦40年

オペラシアターこんにゃく座40周年を記念する新作「ねこのくにのおきやくさま」に出かけた(5日、東京・俳優座劇場)。台本は福田善之、作曲は林光。

原作はスリランカ出身のシビル・ウェッタシンハによる同名の絵本。働き者のネコの国には音楽も踊りもなかったが、あるとき不思議なお面をつけた旅人2人が現れ、ネコたちに音楽と踊りを教える。が、お面をとるとその旅人はネズミ。ネコたちはおもわずヨダレを垂らす。音楽を教えた旅人は友人として彼らと遇して送り出す。

絵本とは違って、ネコたちは旅人が実はネズミだったと

知ってかなり食べたそう。特に「大臣」(富山直人)はそれだけこだわって、原作にない可憐さを醸し出した。

舞台に並ぶ階段のような箱がしつらえの全て。物語は、黒衣の存在の「案内人」(宮瀬晃)が補足する。そして下手にはピアノ(大坪夕美)。歌は、もちろんこんにゃく座の定石通り、よく通る軽い声。合唱になっても濁らないし、長時間聴いても疲れないのは、研鑽の賜物だろう。

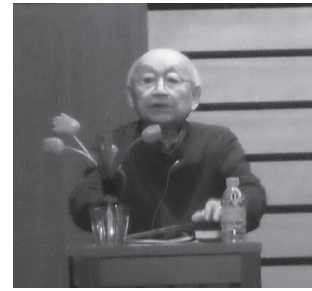
林光の歌は、言葉は素直に延長したところにあり、そこにピアノが淡い、けれど一筋縄ではいかない彩りを加える。開演前のおもちゃのピアノによる会場案内や休憩中のグッズ販売の発声にいたるまで、劇場の全体が繊細に精妙にアレンジされていて、子供も大人もリラックスできる。

おそらく40年前に出発した頃に、このような活動が帯びざるを得なかった挑発性は、今では前面に出ることはなくなった。「仲間の多くが死んでも私たちは歌い、その楽しさを伝えるために生きていく」と歌われるとき、作曲家の人柄も重なり、その洒脱な音楽の奥から諦観や哀切が聞こえてきた。

(伊東信宏・音楽評論家)

## 林光さん講演会

オペラの中にこども こどもの中のオペラ  
 「森は生きている」から  
 「ねこのくにのおきやくさま」へ



2011.4.24 講演会内容より抜粋

### ねこだけの国が なぜあるの?

オペラの台本を初めて書いてもらった福田善之さんと共同で、この原作をどうやって1時間半のドラマに発展させるかということ考えたわけですね。



まず「ねこの、ねこだけの国がなんであるの」ということ。つまり、この世界は色々な動物が人間も含めて、どこでも一緒に暮らしている世界なんだけど、ねこだけの国というのはなぜか? それを、はるか後の時代に、ねこがねこだけで暮すような国をつくってしまった後の時代に設定した。

なんでそうなるかっていうと、それは、この世界の特に人間がその他の生きものを、実際上支配しているところに、この世界に災厄が起こっている。それは、そうはつきりは書いていないけれども、核戦争による破滅的な災厄でその結果動物たちがそこからみんな逃げ出して、自分たち同士でかたまつた。その1つがねこの国という風に考えたわけですね。

そうすると、原作ではねこはねずみが仮面をとった時に、ねこたちは動揺してねずみを食べたいという欲望がうずく。ところが脚本では、必ずしもそうはならない。ねこがねずみをとって食べることが当たり前だった時代から、はるか後の時代にねこの国がある。そういう風な設定。でも何かにつけて思い出してしまう。ねこはねずみを食って暮らしてたって時代があったっていかすかな記憶が残っている訳ですね。(中略)

もう1つ、台本の中に王様の夢があります。

ふいに空が光った まぶしくて目がくらんだ 海の水が熱くなる  
 それから大きな音がした やがて我に返って 首をねじむけるようにしてふり返ると  
 今 逃げてきた国の方角に 大きな大きな雲が立ち上がっていた